

第18回症例検討会

case34

2022年 6月 13日

「受傷一か月後判明した小指中節骨骨折」

50代 女性

主訴：左小指PIP関節の痛み

医師の診断名：左小指中節骨骨幹部骨折

既往症：乳がん(X-6年、ステージ1)

医療機関：整形外科、接骨院、鍼灸院

内服薬：エキセメスタン錠、漢方薬

生活歴：アルコールなし 喫煙なし 食事：玄米菜食中心
自宅でセルフ温熱療法を続けている

出産歴：なし

アレルギー：なし

現病歴：

X年4月 電車の緊急停止で転倒.

その際に掴んだポールで指をひねった.

職場の近隣の接骨院を受診.

靭帯損傷との判断で、毎日の通院を言われた、との事.

受傷後5日経って鍼灸院に来院.

元々体調を整える目的で定期的に通院していた.

テーピングを巻いてあり、接骨院の先生の指示もあったので

鍼灸院では特に指へのアプローチは行わなかった.

痛みが続くようだったら、整形外科受診を勧める.

客観的情報

X年5月

身長: 161 cm 体重: 47 kg

BMI: 18.1 kg/m²

体温: 36.3°

脈拍: 59 回/m

血圧: 120/91 mmHg

SpO₂: 99%

検査: クレアチニン数値が悪い傾向

O(objective) 客観的情報

A(assessment) 評価

東洋医学的情報

寒熱：寒がり、手足の冷え 汗：あまりかかない

食事：玄米菜食中心 二便：便秘傾向 睡眠：5 h / d

月経：閉経

硬結：左志室付近(側弯傾向)

脈診：やや沈、遅、やや濇、やや実、緊
結(たまに出ている)

治療

取穴：背部俞穴に浅置鍼・点灸 頭部 手足要穴 腹部

刺鍼法：補法 浅刺 置鍼

得気：訴えに応じて標治の阿是穴に得気

深さ：2～4 mm

通電：無

頻度：1 / 1 0 d

経過

- X年5月初旬 接骨院に毎日通院。
痛みは軽減しているが痛い時も多い。
鍼灸院では、引き続き体調の整え目的の施術。
飛蚊症が気になるとの事。
- 5月下旬 毎日接骨院に通っているが、何となく違和感を
感じていたため自宅近隣の整形外科を受診。
左小指中節骨骨幹部骨折の診断。

考察

「状態を把握しきれない場合、診断が必要だと考える。」
臨床に大切なクリティカルシンキング。
医師は診断のために
膨大な時間を使って勉強している。
検査や過去の症例、客観的情報から診断がある。

一方、わたしたち鍼灸師が経験する症例は多岐にわたるが
ひとつの疾患を大量にみる機会は少ないのが一般的。
また、客観的指標を得る検査機器もない。

インシデントやアクシデントを防ぐためにも
診断から得た情報に沿って
プランを立てるのが望ましいと考える。

問い

どの状態、どのタイミングで
クリニックへの検査・診断をお願いすることが
適当なのだろうか??

文献

日本整形外科学会 「骨折」

https://www.joa.or.jp/public/sick/condition/bone_fracture.html

日本骨折治療学会 「上肢の骨折」

<https://www.jsfr.jp/ippan/condition/ip20.html>